

Miscellanea Elaeagnorum Japonicarum (1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065423

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



174. *Laurencia Okamurai* YAM. ミツデソヅ 能登島, 寺家一折戸, 輪島, 長手島, 橋立, 着崎
175. *L. cartilaginea* YAM. カタソヅ 柴垣
176. *L. rigida* J. AG. 輪島
177. *Sympylocladia marchantoides* (HARV.) FKBG. コザネモ 触倉(天紀), 橋立, 上戸, 寺家一折戸
178. *S. gracilis* (MARTENS) FKBG. イソムラサキ 触倉(天紀), 橋立, 滝港, 小崎
179. *Herposiphonia tenella* (C. AG.) NÄGEL. クモノスヒメゴケ 上戸, 能登島, 黒島, 剣地, 白崎—曾々木
180. *H. fissidentoides* (HOLM.) OKAM. ヒメゴケ 能登(岡村), 皆月
181. *H. subdisticha* OKAM. クロヒメゴケ 皆月
182. *Euzoniella flaccida* (HARV.) FKBG. クシノハ, 触倉(天紀), 能登島, 能登(岡村)
183. *Leveillea jungermannioides* (MART. et HERING) HARV. ジヤバテノリ 触倉(天紀), 輪島, 白崎—曾々木, 能登島, 橋立, 崎山, 長橋, 鶴飼, 鶴川, 高毛, 七尾—鹿渡島
184. *Rhodomela subfusca* (WOODW.) C. AG. イトフジマツモ, 触倉(天紀), 鹿泊, 上戸, 輪島(岡村)

参考文献

大島勝太郎：富山湾海藻誌（大東出版，1950），岡村金太郎：日本海藻誌（内田老鶴圃，1936），——：日本藻類名彙（敬業社，1902），——：能州の海藻（植物学雑誌，第7巻，p. 110~113，1893），山田幸男（鑑定）：石川県天然記念物調査報告，第十二輯（触倉島，1940）

備考：目録中、（天紀）と記したのは石川県天然記念物調査報告より引用を示す。
(岡村)は日本海藻誌よりの引用を示す。

荒木英一※

日本産グミ属植物雑記 (1)

Yeiichi ARAKI : *Miscellanea Elaeagnorum Japonicarum* (1)

C. P. THUNBERG 氏の *Flora Japonica* (1784) 中にはグミ属植物が6種（中1種は重複）記載されている。これが日本産グミ属植物研究の嚆矢である。又 K. J. MAXIMOWICZ 氏に依り、各種の分類上の位置が明かにされた (1870)。次に理学博士中井猛之進氏に依つて、本属の分類と種類の目録が発表され、日本産グミ属植物の分類は一応完成した (1916)。尙、理学博士牧野富太郎氏は早くから日本産グミ属植物に注意され、多数の顯著な種類を記載された。その他内外諸学者の研究に依つて種類が漸次豊富となり、最近理学博士大井次三郎氏の『日本植物誌』(1953)，理学博士原寛氏の『日本種子植物集覽』第三

※ 京都市左京区岡崎法勝寺町 82

冊(1954)が相次いで出版され、その種類が大いに明かになつた。

筆者はタンゴグミ(*Elaeagnus Arakiana* KOIDZ.)を調査したのが動機となり、その後広く日本産グミ属植物に就いても多少研究を続けている。その間気付いた所を次に記し、同好各位の御叱正を御願いする次第である。

この研究に際し、貴重な文献を閲覧させて下さつた京都大学の理学博士北村四郎氏並に標本の蒐集に就いて御協力下さつている古瀬義氏始めその他多数の同好知友に深甚の謝意を表します。

(1) ナハシログミ(*Elaeagnus pungens* THUNB.) 本種は我が国「ぐみ」の主品で、本州中部以南・四国・九州の山野に生じ、時に栽植もされている。又中井博士編『朝鮮森林植物編』第17輯に依れば、朝鮮にはナハシログミは産しないと言われるが、同時に朝鮮(慶南)にオホナハシログミが稀産すると言われるから、必ずやその附近にナハシログミも産するものならんか。筆者は丹波に生れ丹波に育つたので、少年の頃、晚春の山野に「グミ」採り、「イツタンドリ」採りに友達と一緒に出かけた思い出がなつかしい。ナハシログミの熟果を探り、イタドリの嫩苗を探るのであり、食うことよりも探ることに興味を感じ、毎年憶えのある同じ溪畔、同じ山麓にイタドリの嫩苗を見つけて狂喜し、ナハシログミの熟果を見つけて走り寄つたものである。

本種は葉形の変化に富み、従来2変種が記載されている。範型は日本学術会議・日本植物学会編纂『ツユンベリー研究資料』第41頁第17図にも見られる通り、葉面は長楕円形、稍鈍頭、円脚のもので最も普通に見る型である。変種のセンペイグミ(var. *rotundifolia* SERV.)は葉面殆んど円形、3—4 cm長、2.5—3.5 cm幅のものである。又ヒロハナハシログミ(var. *latifolia* HONDA)は葉面長楕円状楕円形又は長楕円形、5—6 cm長、2.5—3.5 cm幅、鈍又は円頭、屢々稍心脚のもので伊豆に産する。筆者は新に葉面長大のものをナガバナハシログミ(var. *megaphylla* ARAKI)とし、葉面狭長のものをホソバナハシログミ(var. *angustifolia* ARAKI)として區別した。前者は丹波・近江(橋本忠太郎氏、『近江博物同好会誌』第11号第373頁)等に稀でなく、後者は摂津に産し、稀である。尚A. REHDER氏は斑葉の園芸品4種を挙げているが、筆者は未だ実見していない。

Elaeagnus pungens THUNB., Fl. Jap. (1784) 68 et 373—MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pétersb. XV (1870) 379—FR. et SAV., Enum. Pl. Jap. I (1875) 409—NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XXX (1916) 73—MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1931) 789—MAKINO, Yagai-Shiokubutsu-Dzufu IV (1933) 308; Illust. Fl. Nipp. (1940) 302, fig. 904—Ishii, Engei-Daijiten II (1950) 697—OHWI, Fl. Jap. (1953) 806—HARA in Forskningsmat. Thunb. (1953) 63, fig. 17; Enum. Spermat. Jap. III (1954) 239.

Elaeagnus spinosa (non L., err. det.) THUNB., Kaempf. Illust. I (1780) 198.

Sijnu Kotai, vulgo *Akin Gommi*, Kaempf. Am. ex. Fasc. V (1712) 789 (fide C. P. Thunberg).

Laminae foliorum oblongae vel anguste oblongae vel ellipticae, apice acutae vel obtusae, basi rotundatae vel obtusae, 4—9 cm longae, 1.5—4.2 cm latae. Flores

maiores, calycis tubis longe campanulatis, 6.5—7 mm longis, 3—5 mm crassis, lobis late ovatis, apice acuminatis, 4—5 mm longis, intus sparsissime stellato-pilosus, stylis glabris.

Nom. Jap. Nawashiro-gumi.

Distr. Honshiu media et australis, Shikoku, Kiushiu.

var. *rotundifolia* SERV. in Beih. Bot. Centralbl. Abt. 2, XXX (1909) 80, fig. 11, 2 (sub subsp. *eu-pungens*)—HONDA in Bot. Mag. Tokyo LIII (1939) 385.

Elaeagnus pungens THUNB. var. *rotundifolia* HONDA in Bot. Mag. Tokyo XLIX (1935) 696.

Elaeagnus pungens THUNB. form. *rotundifolia* (SERV.) HARA, Enum. Spermat. Jap. II (1954) 240.

Nom. Jap. Sembei-gumi (HONDA, 1935).

Distr. Honshiu (prov. Kii), Kiushiu.

var. *latifolia* HONDA in Bot Mag. Tokyo LI (1937) 645.

Nom. Jap. Hiroha-nawashirogumi (HONDA, 1937).

Distr. Honshiu (prov. Idzu).

var. *megaphylla* ARAKI, var. nov.

Laminae foliorum anguste oblongae raro oblongae, apice acutae vel obtusae, basi rotundatae vel obtusae, 9—14.5 cm longae, 3—6 cm latae.

Nom. Jap. Nagaba-nawashirogumi (Nom. nov.).

Hab. Honshiu : prov. Tamba, Kitakuwadagun, mt. Riugadake (Y. ARAKI, 12 Mai. 1940, n. 15237—Typus); prov. Ohmi, urbe Hikoneshi, Shiroyama (C. HASHIMOTO, n. 7011).

var. *angustifolia* ARAKI, var. nov.

A typo recedit, foliis angustioribus, floribus angustioribus. Laminae foliorum oblanceolato-oblongae vel anguste oblongae, apice acuminatae vel acutae, basi anguste obtusae, 5—8 cm longae, 1.5—2.8 cm latae. Flores angustiores, calycis tubis cylindricis, 7—9 mm longis, 2.2—3.2 mm crassis, lobis ovatis, apice acuminatis, 4—4.5 mm longis, stylis glabris.

Nom. Jap. Hosoba-nawashirogumi (Nom. nov.).

Hab. Honshiu : prov. Settsu, urbe Takatsukishi, Hara (M. KUWASHIMA, 7 Nov. 1954—Typus); prov. Idzu, Tagatagun, mt. Sanagiyama (M. FURUSE, 12 Oct. 1949—ramo valde vetusto, spinoso, ramulis multinatis, valde abbreviatis, foliis valde minoribus, 2—4 cm longis, 0.6—1.4 cm latis).

(2) ツルグミ (*Elaeagnus glabra* THUNB.) 本種は本州関東以南・四国・九州・琉球・台湾・朝鮮南部・支那に分布し、三丹地方(近畿西北部)では山野に生じ、果実はナハシログミより稍早く熟するが、大きくて「ぐみ」の中では一番美味である。併し、産量が遙

かに少い。

本種も葉形の変化に富んでいる。範型は上記『ツエンベリー研究資料』第41頁第16図に見られる通り、葉面は橢円形又は長橢円形、稍急に鋭尖頭往々尾状鋭尖頭、鈍脚のもの、本種としては最も普通の型である。従来記載されている変種では葉面披針形のホソバツルグミ (var. *oxyphylla* NAKAI) が朝鮮南部・支那に産し、葉面細小のコバノツルグミ (var. *Jotanii* HONDA) が伊豆の八丈島に産する。筆者は茲に葉面広闊のものをヒロハツルグミ (var. *ovalifolia* ARAKI) として區別した。丹波・但馬等に稍稀に産する。

Elaeagnus glabra THUNB., Jap. mspt. ex Murray, Syst. Veg. ed. 14 (1784) 164 — THUNB., Fl. Jap. (1784) 67 — MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pétersb. XV (1870) 379 — FR. et SAV., Enum. Pl. Jap. I (1875) 409 — NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XXX (1916) 74; Fl. Sylv. Kor. XVII (1928) 14 — MAKINO in Journ. Jap. Bot. III (1926) [198]; Yagai-Shiokubutsu-Dzufu IV (1933) 313; Illust. Fl. Nipp. (1940) 302, fig. 905 — MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1931) 786 — ISHII, Engei-Daijiten II (1950) 697 — OHWI, Fl. Jap. (1953) 806 — HARA in Forskningsmat. Thunb. (1953) 63, fig. 16; Enum. Spermat. Jap. III (1954) 236.

Laminae foliorum ellipticae vel oblongae, apice vix subito acuminatae interdum caudato-acuminatae, basi obtusae vel rotundatae, 4.5—8 (—11) cm longae, 2—3.5 (—4.5) cm latae. Flores potius minores, 10—11 mm longi, calycis tubis angustioribus cylindricis, sursum plus minus crassioribus, basi laeviter constrictis, 4 mm longis, 1.5—2.1 mm crassis, lobis ovatis, apice acutis, 3.5 mm longis, intus dense stellato-pubescentibus, stylis glabris.

Nom. Jap. Tsuru-gumi.

Distr. Honshiu media et australis, Shikoku, Kiushiu, Riukiu, Formosa, Corea australis, China.

var. *ovalifolia* ARAKI, var. nov.

Laminae foliorum ovales vel ellipticae, apice subito acutae, basi rotundatae, 4.5—7 cm longae, 2.5—4 cm latae.

Nom. Jap. Hiroha-tsurugumi (Nom. nov.).

Hab. Honshiu: prov. Tamba, Hikamigun, Niimura, mt. Takamijio (Y. ARAKI, 3 Jun. 1928, n. 9491 — Typus); Takigun, Ajimamura, mt. Matsuwoyama (Y. ARAKI, n. 9487); prov. Tajima, Kinosakigun, ad oppidum Kinosakichio (Y. ARAKI, n. 9494).

var. *Jotanii* HONDA in Bot. Mag. Tokyo XLV (1931) 299 — NEMOTO, Fl. Jap. Suppl. (1936) 506 — HARA, Enum. Spermat. Jap. III (1954) 237.

Nom. Jap. Kobano-tsurugumi (HONDA, 1931).

Distr. Honshiu (prov. Idzu, ins. Hachijio).

var. *oxyphylla* (SERV.) NAKAI, Fl. Sylv. Kor. XVII (1928) 15, t. 3.

Elaeagnus glabra THUNB. subsp. *oxyphylla* SERV. in Bull. Herb. Boiss. sér. 2, VII (1908) 386; in Beih. Bot. Centralbl. Abt. 2, XXV (1909) 76.

Elaeagnus glabra THUNB. var. *lanceolata* NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XXXII (1918) 223.

Elaeagnus pungens THUNB. var. *lanceolata* NAKAI ex MORI, Enum. Pl. Cor. (1922) 260, nom. nud.

Nom. Jap. Hosoba-tsurugumi (NAKAI, 1918).

Distr. Corea australis, China.

(3) アキグミ (*Elaeagnus umbellata* THUNB.) 本種は北海道・本州・四国・九州・琉球・朝鮮・満洲・支那に分布し、我が国では山野殊に河畔等に最も普通に生じ、往々群生する種類である。又地方に依つては果実を食用とする為に民家に栽培していることがある。

分布が広くて産量が多いことに関連して葉及び果実の変化に富み、従来種々の変品が記載されている。前出『ツュンベリー研究資料』第40頁第15図に *Elaeagnus umbellata* THUNB. の原標本の写真が出ているが、標本は花期のものであるから、アキグミのどの型のものか多少判定に苦しむけれども、同じく第14図の *Elaeagnus crispa* THUNB. の原標本の写真に依れば、標本は若い果実のものであるから、その性状は余程明瞭であり、アキグミの最も普通の型と考えられ、葉面は披針状長橢円形、鋭尖頭、鈍脚のものである。この型をアキグミの範型と決めて考察を進める。

アキグミの葉の広狭は漸変的であり、又質は洋紙状又は革状であるが、場所の変異と見られ、区別は出来ない。古瀬義氏に依れば、信州飯田地方ではアキグミが可成り多く栽培されていると言う。その標品を見るにアキグミの範型であるが、果実は紅味も多く、果肉が多い。多少淘汰されているのである。信濃：下伊那郡豊村及波合村の山地にアキグミの一品を産し、果実の表面に銀白色の鱗毛を著しく密布し、熟しても赤味少く白色であり、霜を経ても食うに堪えない。これをシロアキグミ (form. *argyrea* ARAKI) として区別する。丹波：多紀郡村雲村篠見の田畔にアキグミの一品が栽植され古木となつてゐる。筆者は発見者樋口繁一氏の好意に依り、その生品を実見することが出来た。果実は10—11月に熟し、暗い淡黄色を呈する。これがウコングミ (form. *Higuchiana* HARA) であり、果色の他はアキグミの範型とならない。九州南部に産すると言うキミノアキグミ (*Elaeagnus crocea* NAKAI) は原博士も言われる様に本品と同物であろう。従つて和名はその方が古い。丹波の栽品はどこから来たか、或は近くに野生が発見されるかも知れない。

次に信濃：下伊那郡波合村・上飯田町・清内路村・会地村等の民家に栽培され、樹も葉も果実も頗る大形となり、果実を食用にしているアキグミの一型がある。発見者古瀬義氏の通信に、野生らしきものは上飯田町の山地で一本だけ見たことがあると言う。これがオホアキグミ (var. *macrocarpa* ARAKI) であり、変種としては顕著なものである。一品タテミヅアキグミ (form. *sulcata* ARAKI) は丹波：多紀郡城北村の河畔に僅かに産し、樋口繁一氏の発見である。オホアキグミに頗る能く似たもので葉の性状はそつくりであるが、果実が稍小さく、略球形で常に8箇の浅い縦溝がある所が異う。

次に老枝の葉は長橢円形又は倒卵状橢円形、稍鋭頭、鈍又は鋭脚、5—7cm長、2.5—3.7cm幅、若枝の葉は卵状広橢円形、短く鋭頭、円又は截脚、6.5—7.5cm長、4.2—5cm幅のものが朝鮮中部（黃海・京畿・慶北等）に産し、ヒロハアキグミ（var. *Nakaiana* ARAKI）の名がある。本州（河内）にもそれらしいものを産する。

次に丹後：熊野郡湊村の海岸に産し、西山茂雄氏が採集された一型は、ヒロハアキグミに一寸似ているが、葉面は小判形であり、若枝の葉は老枝の葉よりも却つて狭長である所が異う。これをコバンバアキグミ（var. *obtusifolia* ARAKI）と新称する。アキグミの範型は時に小判形の葉を二形的に出すことがあるが、コバンバアキグミは異形葉は出さない様である。

次にアキグミの葉上面に早落生の星毛を有するものがミチノクアキグミ（var. *coreana* LEV.）であり、アキグミと平行分布し、別に地理的の意味もなく、又葉上面の星毛も往々中間形の星状鱗毛となることがあつて余り顯著な変種ではない。

Elaeagnus umbellata THUNB., Jap. mspt. ex Murray, Syst. Veg. ed. 14 (1784) 164—THUNB., Fl. Jap. (1784) 66, t. 14—MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pétersb. IV (1870) 378, excl. syn.—NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XXX (1916) 76—TANAKA in Bult. Sci. Fak. Terkult. Kjusju Imp. Univ. 1 (4) (Sept. 1925) 198 et 208, cum syn. *Elaeagnus crispa* THUNB.—MAKINO, Yagai-Shiokubutsu-Dzufu IV (1933) 308; Illust. Fl. Nipp. (1940) 301, fig. 903—Ishii, Engei-Daijiten II (1950) 696—OHWI, Fl. Jap. (1953) 806—HARA in Forskningsmat. Thunb. (1953) 62, fig. 14—15; Enum. Spermat. III (1954) 241.

Elaeagnus crispa THUNB., Jap. mspt. ex Murray, Syst. Veg. ed. 14 (1784) 163—THUNB., Fl. Jap. (1784) 66—KOIDZ. in Bot. Mag. Tokyo XXXIX (Dec. 1925) 304, cum syn. *Elaeagnus umbellata* THUNB.—MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1931) 785—SHIBATA, Shigen-Shiokubutsu-Jiten (1949) 182.

Elaeagnus longipes A. GRAY var. *crispa* (THUNB.) MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Pétersb. IV (1870) 378.

Elaeagnus multiflora THUNB. subsp. *eu-multiflora* SERV. var. *crispa* (MAXIM.) SERV. in Beih. Bot. Centralbl. Abt. 2, XXV (1909) 61, sensu stricta, excl. planta.

Elaeagnus umbellata THUNB. var. *typica* SCHNEID., Ill. Handb. Laubh. II (1909) 411, fig. 279 x-z, fig. 280 f-i.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *typica* (SCHNEID.) NAKAI, Fl. Sylv. Kor. XVII (1928) 10, t. 1.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *subcordiacea* NAKAI et MASAMUNE ex NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XLIII (1929) 443.

Elaeagnus multiflora THUNB. var. *crispa* MAXIM. apud MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1931) 788.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *stenophylla* KOIDZ. in litt. ex MURAI in Fl. Miyagi-

Pref. (1935) 85, nom. nud. (cum nom. Jap. Hosoba-akigumi).

Laminae foliorum oblanceolatae vel anguste oblongae interdum diverse obovato-oblongae vel ovato-oblongae, apice obtusae vel acutae vel acuminatae cum obtuse apice, basi acuminatae vel acutae vel obtusae, 4—9 cm longae, 1—3 cm latae, textura chartaceae vel coriaceae, supra primo squamis interdum stellulo-squamis argenteis obtectae demum fere nuda et raro sparsissime stellato-pilosae. Flores minores. Calycis tubi angustissime obconici, basi i. e. supra germen laeviter constricti, 4—5 mm longi, sub limbo 2—2.5 mm crassi, lobi ovati, apice longe acuminati, 3.5—4 mm longi, intus sparsissime stellato-pilosi. Styli sparsissime stellato-pilosi. Fructus in axillis foliorum 1—3 glomerati, breviter pedicellati, in auctumno maturati, minores, globosi vel ovales, glauco-rubentes, putaminibus ovalibus vel ellipticis, 4—5 vel 5—8 mm longi, 2.5—3 vel 4 mm crassi.

Nom. Jap. Aki-gumi.

Distr. Hokkaidoh, Honshiu, Shikoku, Kiushiu, Riukiu, Corea, Manchuria, China.

form. **argyrea** ARAKI, f. nov.

Fructus maturatus albo-rubens squamis argenteis densissime obtectus, vix esculentus.

Nom. Jap. Shiro-akigumi (Nom. nov.).

Hab. Honshiu : prov. Shinano, Shimoinagun, Yutakamura (M. FURUSE, 22 Sept. 1932, n. 1791, immature fructifera—Typus); Namiaimura (M. FURUSE, 8 Oct. 1932, n. 1805, submature fructifera).

form. **Higuchiana** (HONDA) HARA, Enum. Spermat. Jap. III (1954) 242.

Elaeagnus crocea NAKAI in MATSUM., Icon. Pl. Koisik. II-4 (1914) 67, t. 118; in Bot. Mag. Tokyo XXX (1916) 76.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *Higuchiana* HONDA in Bot. Mag. Tokyo LIX (1946) 14.

Laminae foliorum oblanceolatae vel longe obovatae, apice acutae vel rotundatae, basi acutae vel obtusae, 3—6 cm longae, 1.2—2.3 cm latae. Fructus ovato-globosus, laeviter emarginatus, basi laeviter cordatus, 7—8 mm longus, 6.5—7.8 mm in diametro, sordide lutescens, lepidibus albis vel fuscis sparsim obtectus, ptamine oblongo, 6—7 mm longo, 2.8—3.5 mm in diametro. Pedicellus fructus brevis, clavatus, 5—7 mm longus.

Nom. Jap. Kimino-akigumi (NAKAI, 1914), Ukon-gumi (Nomen loci in prov. Tamba ex HONDA, 1946).

Distr. in Kiushiu australis spontanea, etiam Honshiu in prov. Tamba rarissime colitur.

Specim. exam. Honshiu : prov. Tamba, Takigun, Murakumomura, cultivatum (S.

HIGUCHI, 4 Nov. 1954 — v. v. c.).

var. **macrocarpa** (SUGIMOTO) ARAKI, comb. nov.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *macrocarpa* SUGIMOTO, Key Tr. Shr. Jap. (1936) 266.

Elaeagnus umbellata THUNB. form. *macrocarpa* HARA, Enum. Spermat. Jap. III (1954) 242.

Planta major, folia majora, fructus valde majores. Laminae foliorum oblongo-oblanceolatae, apice obtusae vel acutae, basi acutae vel acuminate, 5—8.5 cm longae, 2—3.2 cm latae. Fructus 1—3 in axillis glomerati, pedicellis 7—10 mm longis, ex M. Furuse in litt. "elliptici vel ovales vel fere globosi, interdum longitudinaliter sulcati", lepidis fuscis vel albis densiuscule obtecti, putaminibus oblongis, 7—9 mm longis, 3.5—4.5 mm in diametro, esculenti.

Nom. Jap. Oh-akigumi (SUGIMOTO, 1936).

Distr. Honshiu media, in districtu Ina (prov. Shinano) saepe colitur. Patria ignota, sed forsitan districtus Ina.

Specim. exam. Honshiu : prov. Shinano, Shimoinagun, Namiaimura, culta (M. FURUSE, 8 Oct. 1932, n. 1807 — in herb. M. FURUSE), Kami-iidachio, culta (M. FURUSE, 1 Sept. 1932).

form. **sulcata** (HARA) ARAKI, comb. nov.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *sulcata* HONDA in Bot. Mag. Tokyo LVII (1943) 107.

Elaeagnus umbellata THUNB. form. *sulcata* (HONDA) HARA, Enum. Spermat. Jap. III (1954) 242.

A var. *macrocarpa* ARAKI recedit, fructu minore, subgloboso, 8—9 mm longo, 7—9 mm in diametro, facie semper longitudinaliterque 8-sulcato, putamine elliptico, 6—8 mm longo, 4 mm in diametro.

Nom Jap. Tatemizo-akigumi (HONDA, 1943).

Hab. Honshiu : prov. Tamba, Takigun, Jiohokumura (S. HIGUCHI, 12 Oct. 1940).

var. **Nakaiana** ARAKI, comb. et nom. nov.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *coreana* NAKAI, Fl. Sylv. Kor. VII (1928) 12, t. 2.

Nom. Jap. Hiroha-akigumi (NAKAI, 1928).

Distr. Honshiu media (forsan), Corea media.

Specim. exam. Honshiu : prov. Kawachi, Minamikawachigun, Amanomura, Amanoyama (M. KUWASHIMA, 22 Aug. 1936 — plus minus dubium).

var. **obtusifolia** ARAKI, var. nov.

A var. *Nakaiana* ARAKI recedit, foliis rami junioris elongati potius angustioribus, oblongis.

Laminae foliorum obovato-ellipticae vel obovato-oblongae, apice rotundatae raro obtusae vel emarginatae, basi obtusae, 3—6 cm longae, 1.2—3 cm latae, supra

densiuscule argenteo-lepidotae vel argenteo-substellato-lepidotae, infra densissime argenteo-lepidotae, rarissime lepidis fuscis sparsim punctatae. Fructus 1—3 in axillis glomerati, minores, forsan globosi vel globoso-ovales, rubidi, in mense Oct.-Nov. maturati, pedicellis 5—8 mm longis, clavatis. Crescit in loco maritimo.

Nom. Jap. Kobamba-akigumi (Nom. nov.).

Hab. Honshiu : prov. Tango, Kumanogun, Minatomura (S. NISHIYAMA, 4 Nov. 1954 — Typus).

var. *coreana* (Lév.) Lév., Catal. Pl. Yunnan (1915—17) 83 — HARA, Enum. Spermat. Jap. III (1954) 242.

Elaeagnus coreana Lév. in Fedde, Rep. XIII (1913) 101.

Elaeagnus crispa THUNB. var. *parvifolia* NAKAI, Fl. Sylv. Kor. XVII (1928) 11, excl. basonym — NEMOTO, Fl. Jap. Suppl. (1936) 506.

Elaeagnus parvifolia (non WALL., err. det.) NAKAI in Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo XXVII (1949) 32.

Elaeagnus umbellata THUNB. var. *borealis* OHWI, Fl. Jap. (1953) 806; in Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo XXXIII (1953) 80.

Nom. Jap. Kara-akigumi (NAKAI, 1928, pro parte), Michinoku-akigumi (OHWI, 1953).

Distr. Honshiu, Kiushiu, Corea.

岡 国夫※ 田辺氏採集諏訪之瀬島植物目録

K. OKA : A List of Plants Collected by Mr. Tanabe
in the Island of Suwanose, Prov. Osumi.

スワノセ島は鹿児島県の屋久島から奄美大島の間に点在するトカラ十島中の一火山島で長径約8km, 短径5kmあり, 島の中央の御獄(799m)は盛に噴煙を出している。

正宗教授は本誌 Vol. I, No. 2 (1952) にこの列島中の悪石島の植物を記され, その文中に列島の植物に関する諸文献が掲げてある。その後, 1953年に大阪自然科学博物館主催のトカラ十島調査隊がこの列島を調査し,

馬場菊太郎 : トカラ列島 (採集と飼育 XVI, No. 1 ~ No. 7, 1954)

朝日新聞社 : トカラの島々 (朝日写真ブック No. 2, 1954)

などの記事が出ている。併し, 島の人の言によればこの調査団の植物班はスワノセ島には立寄らなかつた様子である (田辺氏談)。したがつてスワノセ島の植物の確実な記録は竹内亮氏 (1936) の6種にすぎない。竹内氏によれば, 森林としてはカンザンチク林と常

※ 山口県立山口農業高等学校